特集2

若手科学者の現在と課題：若手科学者サミット

若手科学者は、学術研究の進展を実質的に担っており、教育についても多くの役割が期待されている。一方で、制度変更の影響を受けやすい立場であり、社会の学術界への見方や考え方が変化すればその影響を直接的に受ける存在でもある。その意味で、若手科学者の現状把握は、現在のそして将来の学術界の役割、社会の学術界への評価を知る上での重要な手掛かりとなる。

しかし、その現状は、これまで当事者である若手科学者が社会に対して直接意見を表明していくことが難しかったため、十分には知られていなかった。このギャップを埋めるために、第23期から日本学術会議の下に「若手アカデミー」が常設の組織として設置された。その下に設置された「若手科学者ネットワーク分科会」は、若手科学者の意見収集と問題提起を目的に活動を進めている。

若手科学者ネットワーク分科会は、若手科学者の交流と問題意識を共有する場として、「若手科学者サミット」と題したシンポジウムを開催している。そこでは、さまざまな分野で活躍する若手科学者の研究発表、各学協会に設置される「若手の会」の活動報告、若手科学者の共通課題を議論するパネルディスカッションと、さまざまな形態で若手科学者の現状の把握と意見の集約が進められている。

本特集では、平成29年（2017年）6月に開催された「第2回若手科学者サミット」での議論を通じ、若手科学者が置かれた現状を明らかにする。さらに、当日のパネルディスカッションのテーマである「若手研究者と研究費」について、当日はカバーできなかった論点も含めて考察する。具体的には、まず若手科学者サミット参加の各若手の会から寄せられた活動報告等をとりまとめ、若手科学者の「生の声」を伝える。若手科学者が抱える課題を当事者の観点から浮き彫りにするものであり、若手のネットワーク形成や社会発信の現状を俯瞰する貴重な資料となっている。

次に、若手科学者サミットでのパネルディスカッションの登壇者による、研究費の在り方についての考察を紹介する。通常のシニアのトップ研究者を念頭にされる議論とは異なった視点から、研究費制度の課題が明らかにされている。分野によっても異なるが、若手科学者が置かれた環境の多様化は、共通の大きな課題となっている。

本特集の各論考を通じて、若手科学者の置かれた現状と課題が、研究者コミュニティに限らず幅広い読者と共有できれば幸いである。

日本学術会議連携会員
第23期若手アカデミー若手科学者ネットワーク分科会委員長
一橋大学経済研究所准教授
宇南山 卓